

新発田市 令和元年度 第2回定例記者会見

- 1 日 時 令和元年5月8日(水)午前11時～
- 2 場 所 ヨリネスしばた501会議室
- 3 内 容

○「米オーナー制度」&田植え体験ツアー

「農業支援ワンストップ窓口」を開設

後期高齢者医療 人間ドック健診費用助成を開始

子育て応援(源泉滾々進呈)事業の実施

蔵春閣移築事業に係るサウンディング型市場調査の実施

「防災気象情報に関する職員研修会」を開催

新ブランド「加治川さくらピクニック」

新道・掛蔵通り名称復活決定記念祭

「ふとっパラプレミアム」限定販売

「食のアスパラ横丁、味めぐり」開催

水道料金の改定

新発田市地域づくり事例集の発行

いたやま春の夢まつり

荒川剣龍峡登山道山開き安全祈願祭

二王子岳山開き安全祈願祭

イメージの魔術師「エロール・ル・カイン展」

市民釣り大会

琴・三絃・尺八演奏会

春季趣味の展示会

「文芸しばた」第45号作品募集

月岡温泉「実(MINORI)」オープン

あいさつ

五月晴れに近いような穏やかな暮らしやすい季節になりました。令和の時代の幕が開けました。

当市でも、5月1日に上皇陛下への感謝の気持ち、あるいは、^{きんじょう}今上天皇陛下の御即位を祝するために記帳所を設けました。240人ほどの市民の皆さんがお出でいただいたと聞いています。

また、台輪衆の皆さんも新しい時代、天皇陛下の御即位を祝したいということで自主的に奉祝一斉あおりを披露いただきました。入り込み数も1100人あったと聞いていますし、市民共々、「令和」の時代を迎えることができました。

また、改元に合わせて入籍をしようということで、37組のカップルが手続きに来られたそうですし、うち4組は午前0時に見えられたそうです。

このようなことは予想をしていました。他市の状況を見ると、改元に合わせたの入籍に対し、ひと工夫しているところがあり、本市としては工夫が足りなかったと反省をしているところです。

また、最も嬉しいことは、令和になって新しい命、7つの命の誕生について届け出がありました。素直な気持ちで、令和を迎えたいと思っています。

今年の年頭のあいさつで、新発田市政の今年の基調は「和」でいこうということを皆さんにお話しをさせていただきました。

まさに、令和の「和」ということにもなりますが、まちづくりは一人ではできないものではない。市民一人一人、そして私どもと一緒にやってチームワークでやろうと伝えてきました。

改めて、新しい令和の時代に向かって、市民にそのことを投げかけていきたいと思っています。

さて、4月18日に韓国にトップセールスに行ってきました。今回は広域観光ということもあり、胎内市長と聖籠町の産業課長と一緒に行ってきました。

昨年、当市で手掛けた「阿賀北ゴルフ三昧」のセールスのため、エージェントと面談しました。大きな成果を得ることができたと感じています。

同時に、新潟県がいかに観光に力を入れてこなかったということを実感しています。現地のエージェントを訪れると、特に鹿児島県、青森県、大分県、宮崎県などは県を挙げて取り組んでいることが見て取れました。

花角新潟県知事は、観光に力を入れているので、大いに期待をしたいと思っています。

この後、用意をしている資料でお示ししますが、今年は「米のオーナー制度」の取組を進めたいと考えています。

月岡温泉に泊まり、新発田を見ていただき、新発田の不足なところや素晴らしいところなど、違った角度で当市を見ていただければいいなと思っています。

それでは、会見項目を説明いたします。

最初に「米のオーナー制度 & 田植え体験ツアー」について

今年度から国外に向けに取り組む「米のオーナー制度」について、紹介します。

これは、当市の高品質・高付加価値の農産物の海外市場を開拓し、農家所得を向上させるほか、海外における「新発田産米」の認知度アップ、さらには、観光誘客にもつなげていくことを目的に行うものです。

この制度は、農産物の安全性を示す国際基準である、「グローバル^{ギャップ}GAP認証」を取得した農家の方が栽培したコシヒカリのオーナーになってもらい、秋には収穫した米 60 キログラムを、お手元にお届けするという内容になっています。

今回は、台湾から米のオーナーになる方、30 人ほどが、3泊4日の日程で当市を訪れます。期間中は、実際に米を栽培する圃場で、田植え体験を行います。また、秋には稲刈り体験ツアーも予定しています。

新発田の美味しいものを知ってもらうことをきっかけに、当市に興味をもってもらおう。そして、田植えや稲刈りを体験するために、当市を訪れてもらう。まさに、「モノのアウトバウンド」と「人のインバウンド」を結びつける取組です。

ぜひ、この制度を成功させ、農業分野、観光分野の両方において、「新発田人気」を高めていきたいと思っています。

次に、「農業支援ワンストップ窓口の開設」について

市では、農業者や新規就農を希望する方などを対象に、農業について、気軽に相談できる環境を整えるため、「農業支援ワンストップ窓口」を開設することにしました。

これまでは、農業者の皆さんが抱える様々な課題について、市の関係部署のほか、県新発田地域振興局、JA北越後などの関係機関に、農業者の方が直接出向き、それぞれの相手方に対して、相談を行っていました。

このような状況を、より効率的なものとし、農業者支援の質を向上させることを目的に、関係機関が連携し、ワンストップで相談に応じることのできる体制を整備します。

具体的には、5月22日以降の毎週水曜日に、関係機関の職員が一堂に会し、農業者の相談に応じます。相談は完全予約制で、事前に相談内容をお知らせいただいたうえで対応することにしていきますので、農業者の各々の悩みに対し、丁寧な対応が可能になると考えています。

この仕組みを取り入れることにより、当市の基幹産業を支える農業者の皆さんが、より良い環境の中で、安心して農業に従事できるよう取り組んでいきます。ぜひ、多くの皆さんに、ご利用いただきたいと思えます。

次に、「後期高齢者医療 人間ドック健診費用助成を開始」について

もう一つ、このたび開始する新たな取組を紹介します。当市では、これまで、「少子化対策」「産業振興」「教育の充実」の3つを、まちづくりの視点としてきました。

今年度からは、「健康長寿」という視点を新たに加え、4つの柱でまちづくりを進めていくということは、ご案内のとおりです。

「健康長寿」に関わる取組をいち早く進めるため、市民の皆さんから要望が高まっていた、75歳以上の高齢者を対象とした人間ドックの受診費用の一部助成制度を、4月から開始いたしました。

いわゆる後期高齢者の健康保持・増進を図るため、後期高齢者医療制度の加入者の方などが人間ドックを受診した場合、申請をいただければ、受診費用として1万円の助成を受けることができます。

これまでも、当市では40歳から74歳までの国民健康保険加入者への、人間ドックの受診についても助成を行い、受診勧奨に努めてきました。

この2つの制度を利用いただくことで、多くの市民の皆さんの健康の保持・増進につなげ、「健康長寿のまち・新発田」を目指して、取組を進めていきます。

次に「子育て応援(源泉滾々進呈)事業」について

新発田の未来を担う子どもたちの誕生をお祝いするため、今年4月1日から、出生届を提出していただいた際に、ボトルドウォーター「源泉滾々」3本をプレゼントしています。

「源泉滾々」は、新発田の水道水をペットボトルに充填したもので、これまでも、当市の安全でおいしい水道水を多くの方に飲んでもらうため、PR資材として活用するほか、ヨリネスしばた1階の売店でも販売してきました。

当市の水道水のおいしさの理由は、超軟水であるとも言われています。マグネシウムの含有量も少なく、お腹にやさしいため、小さなお子さんにも安心して飲ませることができます。粉ミルクを作る際にも、最適です。

新発田の水道水は、「子育てにもやさしい」ことを、子育て世代の方にも知っていただき、ぜひ多くの皆さんに利用していただきたいと思っています。

次に、「蔵春閣移築事業に係るサウンディング型市場調査」について

昨年度、当市出身の大実業家・大倉喜八郎の別邸「蔵春閣」を、市内の東公園に移築することが決定しました。

移築先が決定したことを受けて、今年度は、蔵春閣の活用・管理方法を検討していくということは、先にお知らせしたとおりです。

この活用・管理方法の検討については、官民の連携により進めていくことにしていましたが、このたび、民間のノウハウを効果的に取り入れるため、民間事業者の持つアイデアを収集する「サウンディング型市場調査」から検討を始めることにしました。

サウンディング型市場調査とは、市の施設や市有地などの有効活用に向けた検討を行うにあたり、その活用方法について民間事業者から広く意見や提案を求め、対話することを通じて、市場の状況を把握するというものです。

各地の自治体では、この手法を活用した取組が進められていると聞いていますが、当市で、この手法を採用するのは初めての試みとなります。

今回実施する調査では、市側からの事業概要の説明と現地見学を行う「事前説明会」と、調査に参加いただく事業者と1対1でヒアリングを行う「対話調査」の2部構成で実施することとしています。

事業が本格化する前段階で、積極的に民間事業者の意見の収集や対話を行い、当市の新たな宝となる「蔵春閣」の活用・管理について、最良な方法を模索していきたいと思っています。

これにより、蔵春閣が当市を代表する魅力ある施設となり、多くの方々に愛される施設となるよう、取り組んでいきます。

次に、「防災気象情報に関する職員研修会」について

内閣府では、「平成30年7月豪雨」を教訓とし、平成31年3月に「避難勧告等に関するガイドライン」の改定を行い、避難勧告の警戒レベルなども改定されることが決定しました。

また、内閣府は、このガイドラインに基づく警戒レベルの運用について、出水期前までには実施するとの見解を示していると聞いています。

当市では、間もなくやってくる出水期に備え、もしもの場合に、いち早く対応できるようにするため、5月27日(月)に、新潟地方気象台から講師をお招きし、職員向けの研修会を開催することにしました。

近年、各地で発生している大雨に伴った、土砂災害、浸水害、洪水災害に備えるため、防災に関わる気象情報に関して学び、職員の防災意識の醸成と災害対応能力の向上を図りたいと考えています。

この研修会を通じて、市職員が防災に関わる研鑽を積み、的確な判断能力を身に付けることで、市民の皆さんの安心・安全につなげていきたいと考えています。

次に、新ブランド「加治川さくらピクニック」について

加治川商工会が推薦する、当市の新たな特産品を1つ紹介します。

「ピクニック」をテーマに、加治川地区でとれた越後姫のほか、枝豆の「大峰かおり」、大峰山の桜の蜂蜜などの農産物を活用し、地元企業が新商品を開発しました。

商品の名前は「加治川マカロン」と「加治川いちごバター」で、そのブランド名は「加治川さくらピクニック」と題して、販売していくそうです。

かつて同地区では、厳しい冬を超えて、春になり、桜の花が咲き始めると、人々が桜の木のもとに集まり、とっておきのお酒を楽しんだ「花見休み」という行事が行われていたそうです。

この地元ならではの行事が、「村民ハイキング」へと発展し、「ピクニックを楽しむ文化」につながっていることから、今回の商品開発のテーマを「ピクニック」にしたと聞いています。

新商品は、美味しさもさることながら、パッケージなどのデザイン性も高く、若者に人気の「インスタ映え」が期待できるものとのなっています。また、「加治川いちごバター」は、人気が高く、品薄状態であると聞いています。

道の駅加治川のほか、新潟市の大手百貨店でも取り扱っているそうです。ぜひ、多くの方に手に取っていただき、新発田の特産品を購入いただきたいと思っています。

次に、「新道・掛蔵^{とおり}通り名称復活決定記念祭」について

当市の繁華街である新道・掛蔵地区の住民による、地域活性化の取組について紹介します。

新発田城を中心に栄えた新道・掛蔵地区では、地元の歴史や文化を伝え、地域を活性化していくために、「新道・掛蔵通り保存推進協議会」が主体となり、さまざまな取組を進めています。

同協議会では、1年以上をかけて、地区の歴史を調べ、地元のお年寄りに聞き取り調査を行いながら、かつての「通り」の名称を復活させるため、活動してきました。

このたび、この活動の集大成として、通り名称の歴史について説明をする看板の設置を行うとのことであり、これを記念し、5月19日（日）に、ヨリネスしばた札の辻広場で、お披露目会を開催し、新道・掛蔵地区を、広くPRするとのことでした。

当日は、平成の時代では運行されることのなかった、同地区に伝わる「掛蔵^{かけくら}華台輪^{はなだいわ}」も復活させるほか、さまざまな催しを計画しているそうです。

ぜひ、おおぜいの皆さんにお越しいただき、新道・掛蔵地区の歴史や文化に触れていただきたいと思います。

このほかの情報としては、こちらにも展示していますが、新発田が誇るアスパラガス「ふとっパラ・プレミアム」や、毎年恒例の「食のアスパラ横丁、味めぐり」の話題があります。

また、6月に実施する「水道料金の改定」のほか、市内の各地域で行われている「地域づくり活動」の事例をまとめたパンフレットの発行についての情報があります。

さらには、市内の各地域で春を感じていただける催し、「いたやま春の夢まつり」のほか、荒川剣龍峡や二王子岳への登山の安全を願う祈願祭があります。

その他、今月は、お配りした資料にあるとおり、多くの情報を用意しました。一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田を盛り上げていただきたいと思います。